

(案)

令和 7 年（2025 年）7 月 25 日

鎌倉市長 松尾 崇 様

鎌倉市総合計画審議会
会 長 高木 超

新たな鎌倉市総合計画について（答申）

令和 6 年（2024 年）1 月 31 日付け鎌企第 936 号で諮問を受けた「新たな鎌倉市総合計画について」に対し、基本構想および基本計画を別添のとおり、答申する。

市では、本計画の策定に際して当審議会の審議と並行し、こどもたちを含む多くの市民との直接対話やオンラインによる意見聴取、アンケート調査や意見公募等、さまざまな方法で十分な対応を図られてきたものと評価する。

今後、人口減少や人口構成の変化、バランスの取れていない土地利用、社会事情や国際的な課題等により、市政を取り巻く環境は大きく変化していくことが想定される。

市長におかれては、新たな総合計画（以下「新総合計画」という。）のもと、“鎌倉らしさ”を大切にしながら、将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」の実現に向け、市民・企業・団体等との共創により、持続可能な都市経営に努められたい。

なお、審議の過程において、各委員から非常に貴重な意見・提案等があったため、答申にあわせて、以下の項目について、特に意見を付する。

1. 新総合計画の推進

新総合計画に基づく施策展開に必要な個別計画は、本計画の方向性をさらに発展させるものとして策定されたい。また、本計画の策定過程で市民や当審議会等から出た意見や提案を確認し、その趣旨を尊重されたい。

そして、行政担当部署間の意思疎通を深め、本計画の考え方や目標を理解したうえで、連携して行政運営に努められたい。

2. SDGs の反映

持続可能な開発目標（SDGs）については、17 ある目標を、各施策に不足している

視点を探索する「チェックツール」として用いることと整理した。これに向け、職員研修等を通じ、17の目標がもたらす視点を職員が理解し、行政担当部署が連携して横断的な検討を行うことができる仕組みを整えられたい。

添付資料

1. 当審議会での審議経過
2. 鎌倉市基本構想「鎌倉ビジョン 2034」
3. 鎌倉市基本計画「鎌倉ミライ共創プラン 2030」
4. 審議会委員名簿

以上